

よいこのあんぜんニュース

2025年(令和7年)11月8日発行 469号付録

少年写真新聞 株式会社 少年写真新聞社
Juniors Visual Journal

〒102-8232 東京都千代田区九段南3-9-14 HF九段南ビル URL <https://www.schoolpress.co.jp/>
©少年写真新聞社 2025 年 ※著作権法により、本紙の断断視写・転載は禁じられています。

★定期刊行物は終わる期間を予定しない刊行物です。年度が替わりましても購読中止のお申し出がない場合、引き続きニュースをご送付申し上げます。

寒い日には手袋をはめて温かくして過ごしましょう

全国学校安全教育研究会／東京都荒川区立南千住第二幼稚園 園長 立石晃子

街中の木々の紅葉が深まり、秋から冬へと季節が変わっていく11月です。これから、だんだんと寒い日が増えてきます。寒い時期になると、袖を手まで伸ばしている幼児、ポケットに手を入れて歩く幼児が見受けられます。「手を出そうね」と声を掛けると、その場では手を出すのですが、しばらくすると寒さからまた手を入れてしまうことがあります。適切に防寒対策をして、冬も元気に安全に過ごしていきましょう。

ポケットに手を入れるリスク

冬場は、凍結や霜といった滑りやすい状況が増えます。幼児は、足元に集中し続けたまま様々なことをするのは難しいです。

手が自由であれば、つまずいたり滑ったりした瞬間に、腕を広げたり、地面に手をついて体を支えたりして衝撃を抑えることができます。しかし、ポケットに手が入っていると、とっさに体を支えることが難しくなります。最悪の場合、歯を折る、頭を打つなどの大きなけがにつながってしまうこともあります。また、歩く際には腕を動かして体のバランスをとっているのに、手をポケットに入れて歩くと、バランスがとりにくくなり、歩きづらかったり、とっさの行動がとれません。

寒さから無意識にポケットに手を入れてしまいがちになりますが、子どもが自分の身を守るためにも、大人がこまめに声を掛けて、ポケットから手を出すことを意識させるようにしましょう。

手袋選びのポイント

子どもの手は大人に比べて小さく、冷えやすいです。ポケットに手を入れないようにするためにも、手を温かくできる手袋の着用が有効です。はめやすさや扱いやすさ、保温性の高さから、低年齢児はミトン型をはめることが多いのですが、グローブ型へと徐々に移行していけるといいです。グローブ型はミトン型に比べ、物をつかみやすく操作性が高いことが挙げられます。手袋は、サイズが合っていて保温性が高いものを選びましょう。小さ過ぎると手を圧迫し、大き過ぎると脱げてしまいます。子どもの力が弱いと、指を個々に動かして着用することが難しいので、大人が手伝ってあげましょう。

「かわいい」だけで選ばない寒さ対策

手袋をはめる以外にも、防寒対策が必要になる場面が増えます。寒い中でも子どもはたくさん体を動かしますので、分厚い上着ではなく動きやすく脱ぎ着しやすいものにしましょう。また、マフラーや帽子などの小物で調節できるようにしましょう。

その際には、「かわいいから」というデザイン性だけで選ばないようにしましょう。ひもやフードなどは遊具、家具、ドアノブなどに引っ掛かったり挟まったりして、転倒やけがにつながる危険があります。常に「温かくてかわいいけれど安全か？」という視点で、子どもが身につけるものを選びましょう。

あんぜんだより

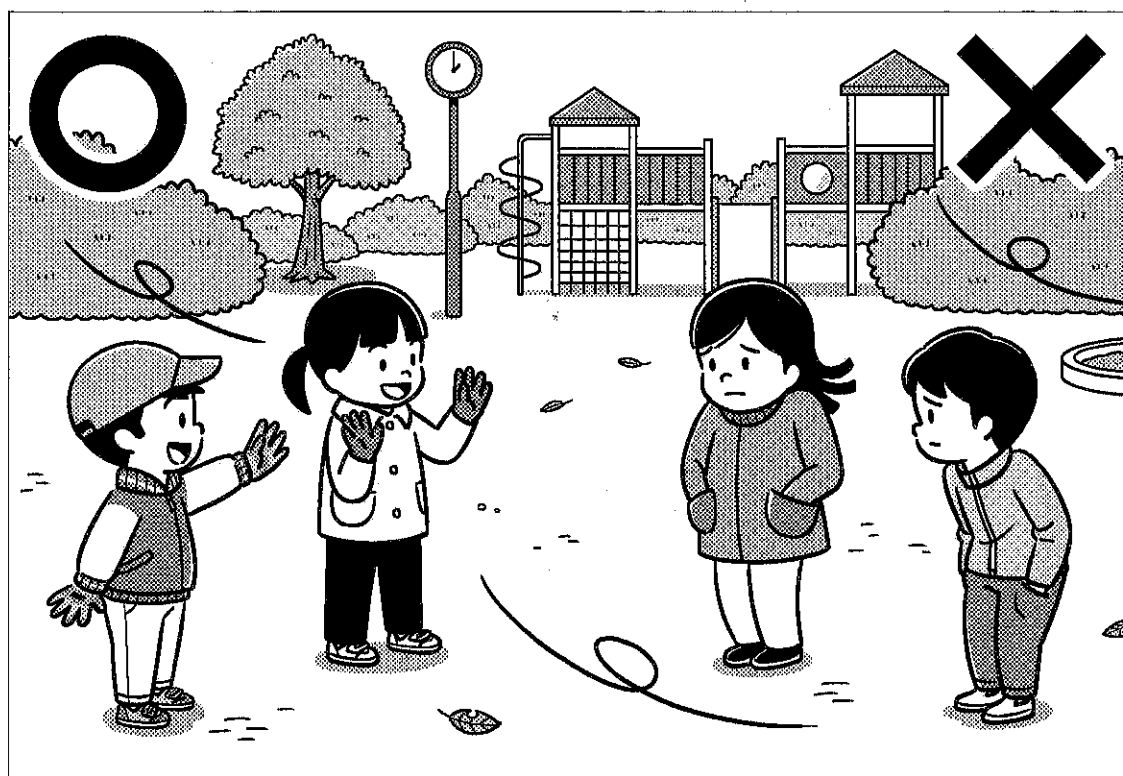
監修 全国学校安全教育研究会／東京都荒川区立南千住第二幼稚園 園長 立石晃子先生



寒い季節には手はポケットに入れず、手袋を使用して寒さを防ぎましょう

11月に入りました。そろそろ冷たい北風が吹き始めてくる頃です。寒いからといって、手をポケットに入れたまま歩くことは危険です。手が冷たい時には手袋をすることを子どもに教え、保護者の皆さんが、子どもたちの手本となる姿を見せていきましょう。

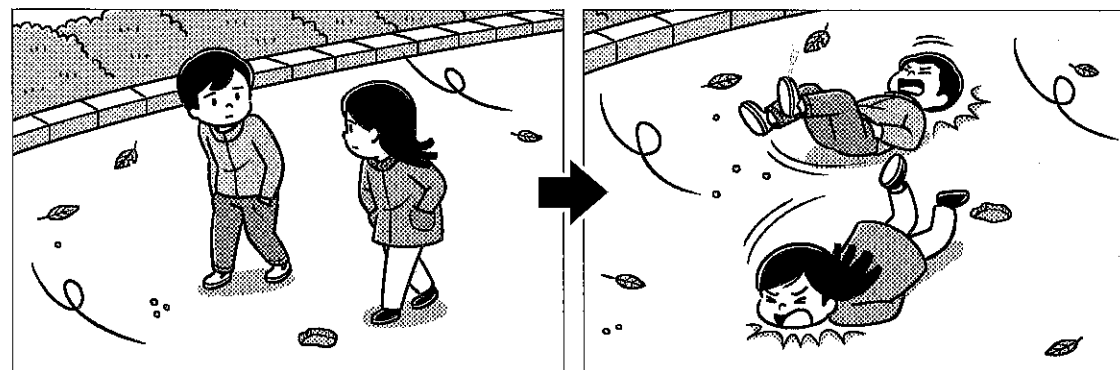
てが つめたい ときは てぶくろを



ズボンや うわぎの ポケットに てを 入れて あるくと あぶないよ。てが さむい つめたい てぶくろを しようね。

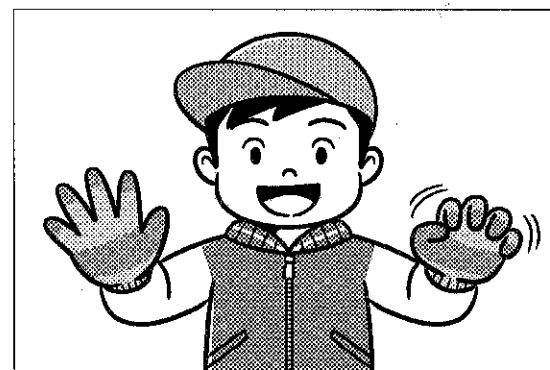
保護者の方へ 人は、歩く時や走る時に足の動きに合わせて腕を振ることで、体のバランスをとっています。寒いからといって、ポケットに手を入れたまましていると、そのバランスがとれずに転倒したり、転倒した時にとっさに手を突けず、頭や顔にけがをしたりする危険があります。寒い時は手袋をして、両手を自由に使えるようにしましょう。手袋は子ども自身の手のサイズに合ったもので、すべての指が動かしやすいものを選びましょう。また、公園などの遊具で遊ぶ時は、手が滑ることを避けるために、手袋を外して遊ばせましょう。

ポケットに てを 入れたまま あるくと どうして あぶないのかな？

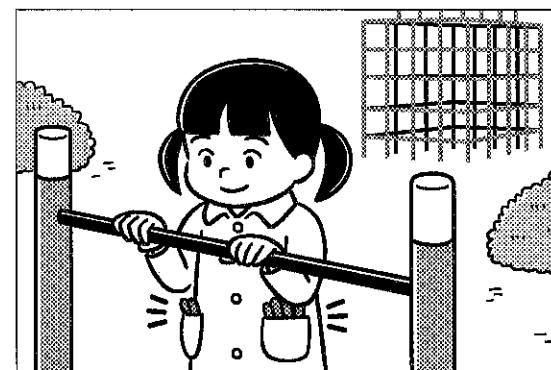


ポケットの なかに てを 入れたままだと あるきにくくなって ころんで しまうよ。それに ころんだ ときに てが だせないと あたまや かおに けがを して しまうよ。

てぶくろの えらびかた あそぶ ときには てぶくろを とる



じぶんの てに ぴったりと あった おおきさで ぜんぶの ゆびが しっかり うごかせる てぶくろを えらぼうね。



ブランコや ジャングルジム てつぼうで あそぶ ときには てぶくろを とろう。つけた ままだと てが すべるよ。

12月号では「やけどへの注意」について取り上げます。

今月の掲示用ニュース 指導例

ねらい 衣服に手を入れることの危険、手袋着用の安全を知らせる



【左のイラストを示しながら】公園に子どもたちが集まっているよ。冷たい風が吹いていて、寒そうだね。だから、二人の子どもが上着のポケット手を入れているよ。もう一人の子どもが「あぶないよ」って声をかけているけれど、どうしてなのかな。

【右上のイラストを示しながら】手が冷たいからといって、ポケットに手を入れて歩いていると、つまずいて転んだときに手がつかないから、頭や顔にけがをしまうことがあるよ。危ないね。

【右下のイラストを示しながら】手が冷たい時は、手袋をしようね。指先が分かれていて、指が動かしやすいもののがいいよ。

展開例

寒くなってきたね。外にいと、手が冷たくなってしまふけれど、服のポケットに手を入れていることはないかな。

早めのライトオンで事故を防ぐ ～自転車の無灯火は交通ルール違反です～

子どもの送り迎えをする保護者の中には、自転車を利用する方もいらっしゃると思います。冬が近づいてだんだん日が短くなり、子どもを迎えに出かける頃には、かなり暗くなっていることもあるかと思います。

車もバイク（今のバイクは常時ライトがついています）も、周囲が街灯などで明るい道でも、夜間は必ずライトをつけます。これは交通ルール（道路交通法）で決められていて、同じ車両である自転車もライトをつけなければいけません。もともと自転車も「無灯火」で事故などを起こすと5万円以下の罰金ですが、来年の4月に反則金制度が導入されると、「無灯火」の運転で警察の取り締まりに遭うたびに、5000円の反則金（予定）

の支払いが求められます。

ライトをつける目的は、進む方向を明るく照らすことだけではなく、自転車についている反射板も含めて、周囲に自転車があることを知らせるためでもあります。暗くなると視認性が下がるので、日没が近づいて暗くなってきたら、早めにライトをつけることが大切です。

なお、おおむね10m先ぐらいまでの安全が確認できる程度の明るさ、視認性が求められます。それ以上先を照らすように上向きにすると、前方から向かってくる車やバイク、歩行者がまぶしく、迷惑になります。また、車やバイク同様、点灯が基本なので、チカチカと点滅させない方がよいでしょう。

参考 国土交通省ウェブサイト／東京都ウェブサイト ほか